

東海道五十三次漫画絵巻と歌川広重 狂歌入東海道

江戸時代、庶民の間では旅行ブームが沸き起こり、さらに十返舎一九の滑稽本『東海道中膝栗毛』によって東海道の旅が目されるようになります。歌川広重（1797-1858）は保永堂からの依頼で1833（天保4）年に「東海道五拾三次之内」を手がけたのが人気を博し、以後風景画の名手として各地の名所や街道の景色を生涯にわたって描き続けます。その数は東海道を扱った揃物だけでも20種類以上にのぼり、東海道の宿場を描いた街道絵は、「保永堂版」「行書版」「狂歌入」などと便宜的に通称を与え、区別されています。

有名な「保永堂版」から10年ほどあいて描かれたのが、天保後期の中判のシリーズ「狂歌入東海道」です。版元は佐野屋喜兵衛。東海道五十三次の揃物は、起点と終点に53の宿場を描く通常全55図のところ、「狂歌入東海道」は京都が二図の全56図です。狂歌を配することを想定し、上部などに空間が広くとられ、人物も小さく、極端な俯瞰などのない穏やかで繊細な画調が特徴です。

晩年まで精力的に作品を発表し続けた広重ですが、流行病のコレラを患い、数え62歳でこの世を去りました。狂歌は広重自身もその名を「東海堂歌重」と号して嗜み、辞世の歌を残しています。

東路へ 筆を残して 旅の空 西の御国の 名ところを見む

歌川広重「狂歌入東海道」 横中判錦絵 1840年（天保末期）頃 当館蔵

1	東海道五拾三次 日本橋	にほんばし	29	東海道五拾三次 見附 天龍川舟渡し	みつけ
2	東海道五拾三次 品川	しながわ	30	東海道五拾三次 濱松	はままつ
3	東海道五拾三次 川崎	かわさき	31	東海道五拾三次 舞坂 今切舟渡	まいさか
4	東海道五拾三次 加奈川	かながわ	32	東海道五拾三次 荒井	あらい
5	東海道五拾三次 保土ヶ谷 境木立場	ほどがや	33	東海道五拾三次 白須賀 汐見阪ノ圖	しらすか
6	東海道五拾三次 戸塚	とつか	34	東海道五拾三次 二川	ふたがわ
7	東海道五拾三次 藤澤	ふじさわ	35	東海道五拾三次 吉田	よしだ
8	東海道五拾三次 平塚 馬入川渡舟	ひらつか	36	東海道五拾三次 御油	ごゆ
9	東海道五拾三次 大磯	おおいそ	37	東海道五拾三次 赤坂	あかさか
10	東海道五拾三次 小田原	おだわら	38	東海道五拾三次 藤川	ふじかわ
11	東海道五拾三次 箱根	はこね	39	東海道五拾三次 岡崎 矢はぎのはし	おかざき
12	東海道五拾三次 三嶋	みしま	40	東海道五拾三次 池鯉鮒	ちりゅう
13	東海道五拾三次 沼津	ぬまづ	41	東海道五拾三次 鳴海	なるみ
14	東海道五拾三次 原 左り富士ノ縄手	はら	42	東海道五拾三次 宮	みや
15	東海道五拾三次 吉原	よしわら	43	東海道五拾三次 桑名 富田立場之圖	くわな
16	東海道五拾三次 蒲原	かんばら	44	東海道五拾三次 四日市	よっかいち
17	東海道五拾三次 由井 由井川	ゆい	45	東海道五拾三次 石薬師 問屋場ノ圖	いしやくし
18	東海道五拾三次 興津 興津川	おきつ	46	東海道五拾三次 庄野	しょうの
19	東海道五拾三次 江尻	えしり	47	東海道五拾三次 亀山	かめやま
20	東海道五拾三次 府中 二丁町廓之圖	ふちゅう	48	東海道五拾三次 関	せき
21	東海道五拾三次 鞠子	まりこ	49	東海道五拾三次 阪之下 筆捨山ノ圖	さかのした
22	東海道五拾三次 岡部 宇津ノ山ノ圖	おかべ	50	東海道五拾三次 土山 鈴鹿山之図	つちやま
23	東海道五拾三次 藤枝	ふじえだ	51	東海道五拾三次 水口	みなくち
24	東海道五拾三次 嶋田	しまだ	52	東海道五拾三次 石部	いしべ
25	東海道五拾三次 金谷	かなや	53	東海道五拾三次 草津	くさつ
26	東海道五拾三次 日阪	にっさか	54	東海道五拾三次 大津	おおつ
27	東海道五拾三次 掛川	かけがわ	55	東海道五拾三次 京 三条大橋ノ圖	きょう
28	東海道五拾三次 袋井	ふくろい	56	東海道五拾三次 京 内裏	きょう

資料

資料名	制作年	所蔵
手形(天保九年成年 八月三廷の内)	1838(天保9)年	桐生市教育委員会
薬入れ	江戸期	福地書店蔵
薬入れ(緒締は栗)	江戸期	福地書店蔵
寛永通宝、文久永宝、天保通宝	江戸期	当館蔵

資料名	制作年	所蔵
小物入れ	江戸期	福地書店蔵
ひょうたん(盃付)	江戸期	福地書店蔵
あんどん	江戸期	福地書店蔵
矢立て	江戸期	福地書店蔵

東京漫画会は、日本で初めての漫画家集団として岡本一平を筆頭に1915（大正4）年に結成され、同会員のほとんどは新聞社に所属、また多くが美術学校の出身でした。若手漫画家たちの団結と漫画家という職業を宣伝することを目的として、「漫画祭」という名のイベントのほか、漫画展覧会の開催、雑誌の発行などにより世間の注目を集め、漫画家たちの存在を広く知らしめていきました。その活動は1923（大正12）年3月まで続き、日本漫画会に改組します。

1921（大正10）年、中央美術協会の企画で、東京漫画会会員が現代の広重のつもりで自動車で東海道五十三次をスケッチして回り、それをもとに肉筆画セットを販売する東海道自動車旅行が計画されます。この企画には読売新聞社と朝香屋書店が後援し、18名の漫画家が参加しました。帰京後、会員たちはスケッチをもとに水彩紀行漫画を一人1～4種、各150枚ほど描き、巻物に装幀して「東海道五十三次漫画絵巻」として新聞・雑誌に広告を出して販売されました。本作はすべて肉筆画によるため、同作家による同地を描いた画でも少しずつ異なっています。

東京漫画会「東海道五十三次漫画絵巻」 紙本彩色 各24.7×33.0cm 1921（大正10）年 当館蔵

1	日本橋	にほんばし	岡本一平	29	見付	みつけ	森島直三
2	品川	しながわ	在田 稔	30	浜松	はまつ	宍戸左行
3	川崎	かわさき	下川凹天	31	舞阪	まいさか	服部亮英
4	神奈川	かながわ	岡本一平	32	新居	あらい	前川千帆
5	程ヶ谷	ほどがや	代田収一	33	白須賀	しらすか	細木原青起
6	戸塚	とつか	清水対岳坊	34	二川	ふたがわ	池部 鈞
7	藤沢	ふじさわ	在田 稔	35	豊橋	とよはし	幸内純一
8	平塚	ひらつか	中西立頃	36	御油	ごゆ	水島爾保布
9	大磯	おおいそ	池田永治	37	赤坂	あかさか	山田みのる
10	小田原	おだわら	在田 稔	38	藤川	ふじかわ	水島爾保布
11	箱根	はこね	近藤浩一路	39	岡崎	おかざき	細木原青起
12	三島	みしま	岡本一平	40	知立	ちりゅう	幸内純一
13	沼津	ぬまづ	清水対岳坊	41	鳴海	なるみ	水島爾保布
14	原	はら	服部亮英	42	名古屋	なごや	小川治平
15	吉原	よしわら	近藤浩一路	43	桑名	くわな	山田みのる
16	蒲原	かんばら	池部 鈞	44	四日市	よっかいち	森島直三
17	由比	ゆい	近藤浩一路	45	石薬師	いしやくし	小川治平
18	興津	おきつ	幸内純一	46	庄野	しょうの	中西立頃
19	江尻	えしり	清水対岳坊	47	亀山	かめやま	山田みのる
20	府中	ふちゅう	岡本一平	48	関	せき	前川千帆
21	丸子	まりこ	清水対岳坊	49	坂の下	さかのした	池部 鈞
22	岡部	おかべ	森島直三	50	土山	つちやま	前川千帆
23	藤枝	ふじえだ	小川治平	51	水口	みなくち	宍戸左行
24	島田	しまだ	池部 鈞	52	石部	いしべ	服部亮英
25	金谷	かなや	宍戸左行	53	草津	くさつ	池田永治
26	日坂	につさか	細木原青起	54	大津	おおつ	山田みのる
27	掛川	かけがわ	細木原青起	55	京	きょう	近藤浩一路
28	袋井	ふくろい	水島爾保布				

東海道五十三次漫画絵巻(上下巻)	1921(大正10)年	紙本彩色	個人蔵
------------------	-------------	------	-----

特別出品 山口晃

作品名	制作年	技法	サイズ	所蔵
『趣都』日本橋ラブソディ 中編	2018年	漫画原稿用紙にペン、墨、水彩	37.6 × 26.2cm	作家蔵
『趣都』日本橋ラブソディ 後編その壱	2019年	水彩紙にペン、墨、水彩	37.6 × 26.2cm	作家蔵
百貨店圖 日本橋 新三越本店	2005年	インクジェットプリント	59.4 × 84.1cm	ミヅマアートギャラリー蔵
新東都名所 東海道中「日本橋 改」	2012年	多色刷り木版画	39.2 × 26.9cm	ミヅマアートギャラリー蔵
制作: アダチ版画研究所				

参考展示 歌川広重 復刻版（昭和期） 大江戸木版社

東海道五十三次之内 日本橋 朝之景	東海道五十三次之内 箱根 湖水図	東海道五十三次之内 箱根 湖水図
東海道五十三次之内 京師 三条大橋	東海道五十三次之内 吉原 左富士	東海道五十三次之内 吉原 左富士
江戸名所百景 蒲田の梅園	東海道五十三次之内 庄野 白雨	東海道五十三次之内 庄野 白雨
江戸名所百景 亀戸天神境内	東海道五十三次之内 蒲原 夜之雪	東海道五十三次之内 蒲原 夜之雪